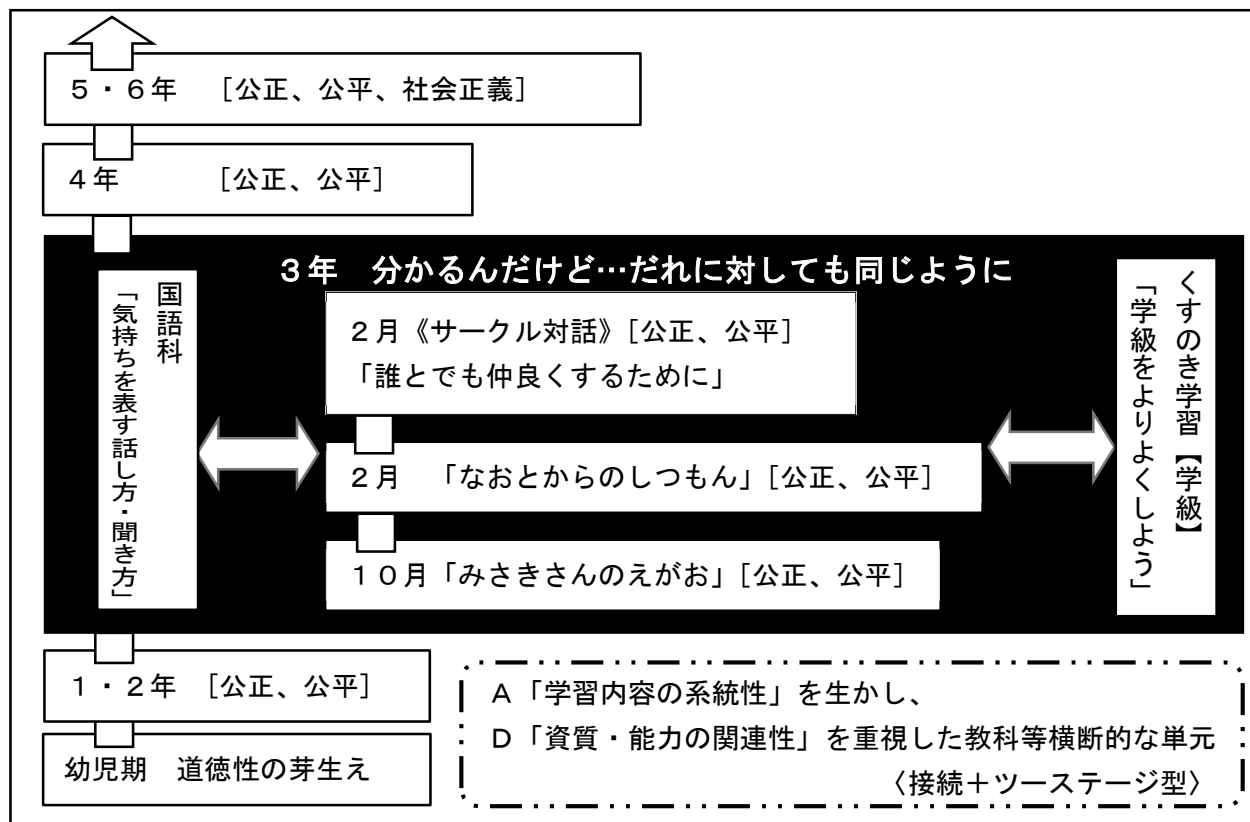


第3学年星組 道徳科（+国語科・くすのき学習【学級・学校】）

「分かるんだけど…だれに対しても同じように」

指導者 石崎 正人

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、道徳科における内容項目「公正、公平」を中心に構想した。公正とは、文字通り正しいとされることであり、社会の秩序維持に適うものである。何を正しいとするかは人によって解釈の仕方が様々あるが、大切なことは、自分のことだけでなく社会で生活する人たちにとってという視点で何が正しいのかを考えることである。そのためには、私心に捉われて事実をゆがめることがないように努める必要がある。公平とは、偏りやえこひいきがないことを意味する。公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。好き嫌いは感情であるため、全くなくすることはできないが、捉われないようにすることはできる。つまり、好き嫌いから他者に対して偏見を持つことがないように努めることはできる。人は他者とのかかわりで生きている。それゆえ、自分と同じように他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとすることは、社会で生活していく上で重要であると言える。

本学級は、素直で仲が良く、協力し合うことのできる子どもが多い。係からの提案で、週に1回クラス全員で遊ぶ日を設定し、元気よく遊んでいるのだが、みんなで楽しく遊んでいる中で、自分と仲のいい友達を優遇するような姿を見掛けることがある。これまでに、道徳科において「仲のいい友達であれば、その子のことを優先するか」について考えてきた経験がある。誰に対しても同じようにしなければならないということを知ってはいるものの、大の仲良しの友達からのお願いだったら、聞いてしまうかもしれないと悩んでしまう子どもが多くいた。よりよく生きていくためには、どうして誰に対しても同じような態度で接することが大切なのかを考え、自分もそうありたいと思うことが大切である。

本教材では、日常、目にする場面を取り上げており、子どもは自分のこととして捉えやすい。いくつかの場面を取り上げ、「どうして人によって態度を変えてはいけないのか」を考えさせることで、友達や

先生、見知らぬ人など様々な人と円滑に生活していくためには、特別扱いをするのではなく、誰に対しても同じように接することが大切であるという思いを持つことができる教材である。

そうしたことを話し合う際に大切にしたいのは、国語科における「伝え合う力」である。教師がねらいとする道徳的価値について伝えるだけでは、価値の押し付けになってしまう。自分の考えを伝え、他者の考えを受け止めながら、子ども同士で話し合いを進めることで、公正、公平という価値について理解することが大切である。さらに、国語科や道徳科で培った資質・能力を生かし発揮する場としてくすのき学習【学級】を設定した。学級をよりよくしていこうと、普段の生活の中で、誰に対しても分け隔てなく接したり、係活動に取り組んだりすることを期待している。

3 単元のねらい

誰に対しても分け隔てなく、公正、公平な態度で接していこうとする思いを持つ。

4 単元の展開（全3時間）

場面	主題と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い 追 究	誰に対しても公平に「みさきさんのえがお」 ○ 分け隔てをせず、誰にでも公正、公平に接しようとする大切さについて考える。	● 誰にでも公正、公平な態度でいることの大切さや難しさについて考えることができている。	1
	公平な態度で「なおとからのしつもん」 ○ どうして誰に対しても同じように接していかなければならないのかを考える。	● どうして誰に対しても同じ態度で接することが大切なのか考えることができている。	1 本 時
振 り 返 り	誰とでも仲良くするために ○ これまでの生活や学習を振り返り、誰にでも公正、公平に接していくために大切なことについて考える。	● 誰に対しても公正、公平な態度で接していこうという思いが高まっている。	1

5 単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ポイントとなる言葉や挿絵を提示し、子どもが登場人物に共感しながら、自分のこととして考えられるようにする。（学） これまでの生活経験を振り返ることで、自分の持っている価値観を確認する。（学・自） 事前に資料を読んでおくことで、課題についてじっくりと考えられるようにする。（学）
追 究	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの子どもの考えを引き出すことができるように、小集団による話し合いを行い、どうしてそのように考えたのかを子ども同士で互いに聞き合う場を設け、自分の考えを確かなものにする。（他） 全体の話合いでは、教師が根拠を問うなど切り返しの発問を行い、誰に対しても同じように接することの背景にある思いについて考えるようにする。（他・自）
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> 終末に自分が納得できる考えを書く活動を取り入れ、自己を見詰める場を設ける。（自） 学級でまとまった考えについては、その時の板書と共に教室に掲示し、普段の生活の中で、道徳科で学習してきたことが、役に立つことを実感できるようにする。（自） サークル対話の手法を用いて、誰に対しても同じように接することのできる自分であるために大切なことについてじっくり話し合うことで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。（他・自）

6 評価の具体的な方法

本単元を通して「深い学び」が実現したとき、次のような姿が表れると考える。

- 提示された場面から何が問題であるかを捉え、自分のこれまでの生活と重ねながら、どうすべきかを考えようとしている。(学)
- 小集団や全体での話し合いを通して、多様な価値観に触れ、分け隔てなく誰に対しても同じように接するの大切さについて、自分の考えに自信を持ったり、自分が持ち得ていない価値観に出合ったりして、考えを広げ深めようとしている。(他)
- 自己を見詰め、公平な態度で接することができる自分であるために、これからどういう心持ちで過ごしていきたいかを考えようとしている。(自)

(1) 空間軸から見た手立て

ア 指導者評価

上記のような姿が表れているか、空間軸（ワークシート、ファシリテーション・ツール、発言）をつなげて見取るようにする。

視 点	方 法
○ 登場人物に共感して、自分のこととして考えることができているか。	ワークシート、様態
○ 公平な態度で接することの大切さについて、多面的、多角的に考えようとしているか。	ワークシート、付箋紙、様態
○ 分け隔てなく、誰に対しても同じように接することのできる自分であるために話し合い、考えることを通して、自分にとって納得できる考えを見いだすことができたか。	ワークシート、様態

イ 子どもによる自己評価

授業の終末に、自分の学び方がどうであったかについて、ワークシートを用いて振り返る時間を設ける。各項目5点満点で自己評価を行うようにする。最後の項目のみ100点満点とし、理由を簡単に書くようにする。教師は、数値が変化した理由について考えたり、個別に子どもに話を聞いたりして、授業改善につなげる。

質 問 項 目
○ 友達の話をよく聞くことはできましたか。
○ 自分の考えを伝えることができましたか。
○ 今まで知らなかったことに気付いたり、新しい考えを思い付いたりすることができましたか。
○ 今日のテーマについてよく話し合い、考えを深めることができましたか。
○ 学習をしてよかった度は何点ですか。なぜその点数にしましたか。

(2) 時間軸から見た手立て

授業後の様子やくすのき学習【学級】などで、分け隔てなく同じように接することができる姿を取り上げ、全体にフィードバックする。学期末には、子どもがこれまでに書いたワークシートを振り返る機会を設定する。教師は、時間が経過して考え方に変化があったのかなどを、振り返りシートを用いて見取るようにする。

7 本時の授業 (2 / 3)

- (1) 日時 令和2年1月31日 (金) 9:30~10:15
- (2) 場所 3年星組教室
- (3) ねらい どうして人によって態度を変えてはいけないのか考えることを通して、誰に対しても分け隔てなく同じように接することの大切さに気付く。
- (4) 準備物 挿絵、センテンスカード、付箋紙、ホワイトボード、マジック、ワークシート
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導 (○) と評価 (●)
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>3 これまでの話し合いを振り返って、考えたことをワークシートに書く。</p>	<p>「みさきさんのえがお」では、どんなことを学習したのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を嫌な気持ちにさせないことが大切だった。 ・大の仲良しの友達の頼みだったら断るのって難しいと思う子も結構いたな。 	<p>○ 前時の学習を振り返ることで、誰に対しても同じように接することの難しさを確認し、ねらいとする価値の方向付けを図る。</p>
	<p>この場面を見て、どう思うかな。なおとはどんな気持ちだったのだろう。相手や周りの人はどう感じたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって態度を変えるなんて、なおとはだめなことをしているな。 ・なおとは、自分の思ったことに正直だな。なかよしの友達と一緒にいると、自分も嬉しくなるな。 ・相手が喜んでくれると、嬉しい気持ちになるね。 ・嫌だと言われた人は、悲しいだろうな。 ・嫌だというのを見た人は、いい気持ちはしないだろうな。心配になるかもしれないな。 	<p>○ モニターに場面を映し、状況を把握しやすくすることで、課題意識を醸成する。</p> <p>○ 自分のこととして考えられるように、それぞれの立場に立って気持ちを考え、登場人物に共感できるようにする。</p>
	<p>どうして、人によって態度を変えたらだめなんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでもらったり、いいよと言われてたりした人は嬉しいだろうけど、嫌だと言われた人は悲しい。悲しい思いをしている人がいるということを考えていないからいけないんじゃないかな。 ・嫌だということをはっきり言うことで、いじめにつながってってしまうからじゃないかな。 ・逆に考えると、誰に対しても同じように接することで、悲しい思いをする人がいなくて仲良くすることができるんじゃないかな。 <p>自分が心の中で嫌だなど思っている、嬉しそうにすることは、自分に嘘をつくことにならないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かに自分に嘘はつきたくないな。 ・どちらが正しいかわからなくなってきた。みんなにとって正しいと思うことって何だろう。 ・自分に対しては嘘をつくことになるかもしれないけれど、悲しい思いをさせるつもりがないのであれば、嘘をついた方がいいんじゃないかな。 	<p>○ 自分の考えを持って話合いに参加できるように、自分の考えを付箋紙に書く時間を十分に確保する。</p> <p>○ ファシリテーション・ツール (ホワイトボード、付箋紙) を活用するようにして、自分の考えと共通しているところや違うところはどこかを比較しやすくする。</p> <p>○ 互いの思いや考えを尊重しながら話合いを進められるようコーディネートする。</p> <p>● 誰に対しても同じ態度で接することの大切さに気付くことができたか。[発表、様態]</p>
<p>今日の学習で思ったことや考えたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって態度を変えることがいじめにつながってしまうということが分かった。 ・誰に対しても同じように接することが大切だということが分かった。 	<p>○ これまでの自分の生活を振り返りながら、考えを書くよう伝える。</p>	